

十一月の詩

花野

野田 かおり

読みかけの文庫本のページはそのまま
奏でられることがなくなったヴァイオリン
古い椅子は真正面を向いて
訪れてくれた気配
見渡すと
あなた

ここにいるのといないことが
輪舞(ロンド)のように届けられ
ひとりの部屋に
緑の光は満ちて
さっきいたのでしよう
あなた
深い午睡より覚め
おとろえて緑の光
梢のあたりにうずくまった風が
紙飛行機をのせて
その向こうに花野
銀の手を揺らし
振り返って
あなた
さて
秋桜が一輪
本に挟まっていた